

令和 8 年度第 1 回いじめ防止等対策検証会議 委員意見（抜粋）

【学校文化を生かしたいじめ未然防止の取組み】

- 学級担任や学校の先生の立場だと、学級や学校の集団づくりでリテラシーをあげていくという意見もあります。何がいじめに対して必要なのか。要は公衆衛生的に、今だと対症療法的にやっていたり、一部予防的にやっていたりするところがあるのですが、もう少し広い意味で全体のレベルを上げるためにどうしたらいいのか考えていきたいと思っています。（石川委員）
- 学級づくりや学校全体のコミュニティづくりがうまくいっているところに行って、具体的にどうしているのかを聞いてみたいです。おそらく教室を見てみれば、ちょっとした約束をどうするかみたいなものがあると思う。うまくいっているところは学んでいってどこかに還元できるものがあればいいと思います。学校づくりはやはり大事なものであり、それをうまくやっていくためにはどうしたらいいのかなと思います。（石川委員）
- いじめ未然防止を実践する学校文化を作っている学校を見てみたいです。先ほど例に挙げた活動について、同じようなことを全ての学校でやってくださいということではないと思います。学校それぞれの事情や歴史の中で、こどもも学校文化を作る重要な一員となっています。（本図副会長）
- 学校がこどもにとっての居場所となっていることから、もし家庭や地域社会などとの連携もうまくやっているような学校を挙げただけなのであれば、学校文化をキーワードとして、いじめ防止、あるいは人間関係の豊かな育みを行っている実践をお聞きしたいと思っています。いじめのことに限らず、都市部の人口流動の多い学校と、比較的昔ながらの地域、昔ながらの学校を一緒にして仙台の学校とは言えないところが、仙台市の良さでもあり、なかなか難しいところだという気がします。学校文化としていじめを許容しない人間関係を作っている学校では、校内の流れもあれば、校外の方も巻き込みながらというアプローチもあると思います。（氏家会長）

【仙台市いじめ等相談支援室 S-KET について】

- 個人的に、S-KET は画期的な場ではないかと思っており、本市のいじめ防止において果たしている役割について、何らかの形で検証できないかという思いがあります。（氏家会長）
- S-KET の機能を検証することは意義があると思いますが、その時に、多元的な相談機能が充実しているか、学校自体の相談機能がきちんと役割を果たしているのかという視点も大事ではないかと思います。S-KET だけを取り上げるというよりは、学校の中で相談しやすいかどうかということがとても重要です。学校に言いにくかったら他で言えばいいということではなく、一番は学校に相談することだという気はしています。（本図副会長）

【家庭への啓発】

- 家庭教育としてできるいじめ防止としては、SNS の使い方に関する教育であるとか、スマートフォンやパソコンの利用に制限をかけるとか、そういったところではできると思います。それを行うにはどのような方法が有効なのか。保護者としても、SNS によりいじめを防止する方法や保護者が関われるやり方について、何か取り組みがあればと思います。（大曽根委員）
- 家庭教育でいじめ防止もそうだが、傍観者にならなかったという事実に関して、例えば我が子が勇気を出して行動したということに関して、保護者は積極的に、勇気のいることをしたね、いじめられている子が救われた、いじめる子に気付かせてあげたなどと、家庭の中で褒めるであるとか、称賛する活動は有効なので、それを促す活動が必要だと思います。（大曽根委員）